
終わらない夏～あの時の俺達へ～

裏切許無

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わらない夏～あの時の俺達～

【NZコード】

N3570BA

【作者名】

裏切許無

【あらすじ】

テニプリ大好きな四人が自分を殺しまでテニプリキャラに会いに行く。
トリップ小説。

終わらない夏～あの時の俺達～ 設定（前書き）

ほんの一部残酷描写がありますが、そのほかはほとんじ普通です。

終わらない夏～あの時の俺達～ 設定

（設定）

神谷 麻友佳 カミヤ マユカ
幸村大好き女子高校生2年
テンションの上げ下げが激しい
青がかつた黒髪黒目ショート
ボケ担当

天使 京子 アマツカ キヨウコ
手塚大好き女子高校生2年
ドS&変態&腐女子

黒髪黒目ショート
冷やし担当

田ノ瀬 久留美 ヒノセ クルミ

日吉大好き女子高校生2年

ぱつと見クールっぽいが気を許した奴に対しても子供
いらんところで意地を張る

黒髪黒目ロング一つ縛り

ツツコミ担当

星河 勇斗 ホシカワ ユウト

お気に入りのキャラは白石な男子高校生2

ヘタレでくすぐられるのに弱い

甘いものが好き

茶髪黒田男にしては長め

弄られ担当

終わらない夏～あの時の俺達～ 第一話

とある月の綺麗な夜。

麻「行けるよね。」

人のいない深夜の公園。

勇「行くために此処に居るんだろう。」

唯一居る四人。

久「だよね。」

手にはナイフ。

京「まあ、どうひいてもつまらない世界からおなじみで見るしね。」

「

このストーリーの主人公達。
ここは、普通の世界。

超常現象なんて起きないし、幽霊もいない。
つまらない世界だ。

「」から旅立つ先は望む世界。

麻「もうやひそろ夜があけひやつよつー早くしなきやーーー。」

久「じゃあ、アタシは先に逝くな。」

勇「お前かよー。」

久「リーダーが先に逝かないで誰が先頭持つのさ?ま、じゃあね。
次の世界でwww」

京「おう。」

ザクツ

久「つー」 ドサツ

麻「キュー!!」 やるねー www」

勇「滝かつー」

麻「じゃあ、次はまあな。」

ザクツ

麻「www」ドサッ

勇「笑いながら死ぬとか怖つ！」

京「ゆう。」

勇「何？」振り返る

ザクッ

勇「え？」

京「お前は逃げ出しそうだからwww」

勇「そんな心配いらねえって・・・」ドサッ

京「俺も逝くつてちやんとwww」

ザクッ

京「手塚・・・」ドサッ

ア「次のニュースです。 県××市の公園で高校生四人の集団自殺が起きました。遺書は見つかっていません。」

終わらない夏～あの時の俺達へ～ 第一話

ここはどこだろ・・・暗い・・・寒い・・・そういうれば何で此処に居るんだろう・・・俺達は・・・達？

誰だ・・・？アタシと・・・分からぬ・・・アタシ・・・自殺して・・・どうなつたんだっけ・・・ああ・・・

行かなきや・・・

久「つ！..どこここ・・・あ、そつか・・・死んだんだっただ。あいつら何処に居るんだろう。」

スツ

久「！誰っ！？」

？「そんな警戒すんなって。」

変な人がいた。

まるで・・・DJみたいな格好をした人が。
キャップにパー カー、短パン。後ろに影のよつたものを連れている。

久「あんた誰？」

？「あー人間が”神”と呼んでいる存在・・・っていうかんじだな。

「

久「・・・マジか・・・そうだ。まあとキヨン、ゆうが何処にいるか知らないか？」

神「神つて聞いて驚かねえんだな。」

久「神の存在を信じてアタシはここに来たから・・・。」

神「だが、その三人はお前が自殺した後にすぐどっかに逃げちまつたぜ？」

久「は？」

その頃・・・

麻「んー？」

京「まあ！起きたか！」

勇「大丈夫？」

麻「あ、うん・・・」「ビーン？」

勇「わからんない・・・でも俺達死んだよな・・・？」

京「死後の世界・・・」

スツ

神「よひ。」

京・麻・勇「！？」

神「あー俺は神ってんだ。」

麻「やつぱり…ちゃんとできたんだ！！」

神「喜ぶのは早いぜ？お前らの仲間のクルマってやつは此処には居ないからな。」

勇「は？ビーカー」とだよ・・・？

神「あいつには試練に受けでもうっている・・・これ見る。」

ブウン

なんかモニターが出てきた。

神「試練の最中だ。」

麻「キュー!!ンッ！？」

京「何している？」

神「試練つていっても簡単なもんだ。まあ、絆試しつて奴だな。あいつにはお前らが自殺する前に逃げたから此処にはいないと言つてある。」

麻「！？」

京「それを信じたらどうなる。」

神「このままこの世界でさよりつてもいい。だが、気づいたら・・・お前らの望み叶えてやるよ。」

久「・・・それは本当のことか？」

神「神は嘘つかねえぜ？」

久「・・・・・・。」

神「どうした？」

久「神つて死ぬのか？」

神「けがはするけど死なねえよ」

久「そうか。なら・・・それで十分だ。」

チャキ

神「何する気だ？ナイフなんかもつて……」「

ザクツ

久「お前に喰らわせるんだよ WWW」「

神「ふーん……やるジャン WWW」「

久「つ！？」「

フツ

神「クリアだ。」「

ブウン

久「！？」「

麻「キューインツ！？」「

勇「ナイスク留美！！」「

京「フツ簡単じゃないか。」「

久「えつ? 何!-?」

神「やるじやねえか。お望み通り連れて行つてやるよ。ナープリの世界へ。」

パツ

全「いきなりいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい!」

? ? ?

終わらない夏～あの時の俺達～ 第二話

麻「あ・・・れ？みんな中学時代の顔に・・・。」

神「もう二二二二二の世界だぜ。ちなみに前からは今は中学生の時の身体だ。」

勇「マジ？」

神「これからはこの世界で暮らしてもうつかうな。」

久「上等wwwで？これからどうすればいいわけ？あ、あと、住む場所と金はどこでうなつてんの？」

神「い、一度に聞き過ぎ・・・。」

京「いいから答える。」

神「（俺、神なはずなんだけど・・・）ま、まあ金も住居も心配ねえ。金はこのカードを使え。無制限だから。あと、住む場所だが、行く学校の近くにマンションの部屋を取つてある。まあ、ボロじやないから安心しろ。それと・・・一人一人にルームシェアが居るからな。仲良くなれや。」

全「ルームシェアー？」

神「あいつらもそろそろ家に着いだらお前等も転送するぞ。」

「

麻「えー・? ひょっと待つてよーーー!」

神「問答無用 WWW」

シユン

神「仕事完了」

終わらない夏～あの時の俺達～ 第三話 ルームシェア 麻友佳の場合

麻「ふうー・・・マンションつてこいが。つーかテカー・・・これが何県なのかも不明なんですが。」

と、愚痴を言いながらエレベーターに乗り込む

？「そのエレベーター待つた！！」

麻「うおうー！」

？「ふうーセーフセーフ~~~~すまんのう驚かせたか。」

麻「（仁王君仁王君仁王君仁王君仁王君仁王君仁王君・・・・・・）」

？「ああ、自己紹介が遅れとったの。仁王雅治じや。今日からこのマンションの住人じや。ヨロシクの～」

麻「神谷 麻友佳です。よ、よろしくお願ひしますっ！！！（キラキラ）

雅「おう！で何階じや？」

麻「え？ああ・・・（ゴンゴン）

ポケットをあわると神からもらった住所のメモが入っていた！
いつもらつたんだこれ。つていゆつかこい神奈川だったんだ。

麻「えっと、20階……です。」（ここは敬語にすべきなのか！？）

L

雅「おー偶然同じ階じゃ
」

麻「（仁王君）の階なんだ！ルームシロアが誰だとしても同じ階に仁王君がいると考えると苦じやないぜーー」

今のはハイテンションなのだ！――

二
九

雅「着いた着いた
・・えーと2008号室・・・・つと」

「まあ、も部屋探さうつ……。2008年頃……? 2008年
室ー?」

ちょっと待て？仁王くんがつぶやいた部屋番号と同じだゾ
つて つけてる場合じゃなくて！ルームシェアって仁王君！？

雅「お、せじ、じい」

「変な」と聞くかもしけませんが、仁王さん。」

雅「？雅治でよかよ？」

雅「？？？何で分かつたんじゃ？」

麻「えっと・・・まあもルームシェアするんですけど。2008年で・・・」

雅「（キョトン）」

麻「（シー）」

説明しよーつー雅治のキョトン顔はまあにダメージを与えたのであるーー！ 可愛いからーー！

雅「ハツーお、お前なんだつたんが、こんな高マンションで金はらわんでええからルームシェアがほしいなんて言つてる金持ちは・・・」

麻「（それに食い付いて来かやつたんだーーーっていつか高いんだーーー）」

雅「ま、改めてシクシクの一神谷」

麻「ま、あその敬語も直せんかの？俺も堅つ苦つてのは苦手でのよー？」

雅「？じやあその敬語も直せんかの？俺も堅つ苦つてのは苦手での・・？」

麻「わかったーー（よつしゃーーー）」

ボケ担当！神谷 麻友佳はまっさはるとルームシェアですーーー！

京「ん？ 置？」

？「ああ、起きたか。」

京「真田！？・・・ルームシェア？」

真「！？ああ、そうだが・・・。」

京「うつそーマジー！」

ガバッ

真「な！？た、たるんどる！？」

京「（生たるんどる！）（感動）」

真「いいかげん、離してくれぬか？」

京「んーゴメンゴメン」

真「はあ、知つてると思つが真田弦一郎だ。よろしく頼む。」

京「んー。天使 京子。名前でいいよ？よろしく〜」

真「あ、ああ。」

京「ちなみにこは何処？」

「俺の家だ。居候が来るとは聞いていたが・・・まさか女子とは・・・

京「あのー？」

「はつ・す、すまない・・・。」

なんなんだあこの気まずい空気は！－－

ピロレン

京「あ、ケータイ。」

カバツ

From .99

新編 五胡の御内記

キヨンのところは誰だった

?

京「まあは仁王か・・・俺んとこは真田だった。つと・・・」

真「？」

京「何でもない。あ、たぶん立海に通つからそのときせよひじへ

真「ああ、分かつた。」

冷やし担当！！！天使 京子は真田の家に居候！！！

終わらない夏～あの時の俺達～ 第三話 ルームシェア 久留美の場合

久「んー……何処だー？」

？「あの……日ノ瀬 久留美さん……ですか？」

久「ん？そ、そうだけど……つて裕太くん！？」

裕「はつ、はい！不二裕太です。」

久「あー……もしかして、ルームシェアって裕太くん？」

裕「はいっ！」

久「あと、同じ年だから敬語はいらないよ……？」

裕「えつ！？何だ、年上とか変な人とかだったらどうしようとかと思つた……。」

久「知つての通り日ノ瀬 久留美。よろしく」

裕「ああ、よろしく。」

久「で、家の場所どこだか分かる？つていうか……よくアタシつて分かつたね……？」

裕「いや……家の場所が分からなくて、じゃあまず日ノ瀬さん探そつかなつて。黒髪のロングでポニテつて聞いてたからあの人かなーつてなつてさ。今に至る。」

久「つまりどこだか分からない。」

裕「ああ。」

久「んー……。」

神「おい、何だよ迷ってんのか?」

久「あーっ!…いた!家ど二ー?」

神「わーりーわーりー WWW」

久「わーりーじやないよ!…何でもらったメモが夕飯の買い物メモ
なんだよつー?行けるかー!」

裕「(買い物出し)…?」

神「こっちが地図だ。じゃな WWW

久「コノヤロウー!…」

裕「行こうか。」

久「んー。」

神は買い物出しに行くのでしょうか。
つていうか神って飯食べんの?

そんなこと考えている場合じゃない!
早くしないと日が沈んじゃうゾ

久「こっち？」

裕「右じゃない！左！……！」

久「ああ、そつか！」

裕「（方向音痴？）これ一人だつたら完全に迷子だな……。」

久「次は左？」

裕「右・・（泣」

久「んー？」

無事たどり着けんのか！？

久「あれ、裕太くんの通つてるルドルフって寮制だつたよね？なん
で、ルームシェア？？」

裕「寮もなにげに金がかかるんだよ。んで、親がルームシェアの広
告見て勝手に決めた。」

久「（神、募集したんだ・・・。）」

裕「まあ、よろしくな（爽」

久「グハツ！！」

裕「日ノ瀬！？」

久「な、何でもない……（勇斗むじのくらい爽やかだつたらいいのに……。）

裕「？？？」

久「あ、あと日ノ瀬つてなんかよそよそしいからお前でお願い。」

裕「あ、分かつた……。と、ついた……つて一軒家……？」

久「マンションぢやうやん……。」

ツツ「//担当ーーー日ノ瀬 久留美は裕太くんとルームショアーーー！」

そして、ちやっかり既、名前呼びに成功しているwww

勇「つと。どうだい？」

カサツ

勇「ん？メモ・・・地図かな？」

現在地が記されているメモを発見！
この地図通りに歩いてみることにした！

勇「ここか・・・ん？」

「」で勇斗は何かを発見した！

？「（キヨロキヨロ）」

勇「（財前じゃねあれ・・・？）」

？「！？」

タツタツタツ

勇「（え？）つちに来る？」

光「なあ、あんた星河勇斗って人知らんか？」

勇「え？俺だけど……。」

光「……なんや、ルームシェアって言つからなんかと思つたら普通の女子やん。」

勇「！財前がルームシェアなん！？」

光「……名前知つとつてなんでルームシェアって知らんのやお前。」

「

勇「え？ちょっとな……。」

勇斗早速ピンチ！！！

光「まあ、ええわ……知つてると思つけど、俺は財前光や。まあ、よろしくう。」

勇「あ、ほ、星河勇斗。ヨロシク。」

光「勇斗でええよな？なあ、部屋の番号知らんか？」

勇「え？」

ガサゴソ

勇「え？と……たぶん4014号室じゃないかな？書いてある……。」

光「そつか・・・行くで。」

勇「あ、うん！…！」

光「思つたんやけど・・・」

勇「ん？」

光「ずいぶん男っぽい服着とるな。」

勇「え？」

光「え？」

勇「俺、男なんだけど・・・。」

光「マジ？・・・写メ撮つてええか？」

勇「ダメにきまつてんじやん！…！」

弄られ担当ー星河 勇斗は財前ヒルームシェアですーーー

終わらない夏～あの時の俺達～ 第四話

2008年7月

雅「と、ううで……お前さん何処の学校に行くな？見ただといろ
中、じやろ？」

麻「うーん……多分立海？……まだ転入手続きとかいろいろし
てないみたいだからわからんない。」

雅「そうか……。」

麻「（立海じやなかつたらあの神ボコる。）」

雅「なんかさつさだつてるんじやが……（困

麻「気にすんな」

その日の夜

麻「（今思えばあんなに会いたいって思つてた人に会つてよく落ち
着いてられるなあ……。）」

神「いよつ。」

麻「あ、神。」

神「学校のことで話があるんでな。」

麻「立海だらうな。立海じゃなかつたら殺すぞ。」

神「神は死なねえんだぞ・・・」

麻「精神的に殺す。」

まったく、怖い中学生がいたもんだ・・・。

神「まあ、立海なんだけどな。明日からこなよ。」(この辺じゃ何ししかねえし。)

麻「だよねー じゃなかつたら神に向してたかわからなによー」(W
「?」)

神「(WWWじゃねえよ・・・)・・・じゃあ、他の奴のどこにも行かなきやなんねえし。」

麻「ねえ、いろいろとめんべーだから、神はお父さん設定でいい

?

神「ぶつ!..!..んだよそれ・・・。」

麻「だつて人と神が一緒にいるつて不自然ジャン WWW(お前を困らせたいんだよ。)

神「・・・まあ・・・いいか・・・。それからそのつむ合面をやるみたいだからな。」

麻「マジ! ？ヤツター! ！じゃあね。」

スツ

4014号室

神「はいはい、神参上つと・・・誰もいねえし。」

二人は買い物に出かけていた！！

神、失敗

神「・・・待つか。」

二十分後

神「来ねえ・・・。」

四十分後

神「あいつら何処ほつつき歩いてんだ・・・。」

勇「（あ、神・・・財前いるしスルーしよ。）財前君、今日はぜんざいとケーキどうち食べる？」

光「（あの人をスルーか。）あー、どうもせんざいで（キラッ）

勇「そのどつちかのゼンザイは俺のか?」(怒)

光「じょーだん。ゼンザイは明日に残しつく。」

勇「じゃあ今日は紅茶煎れるね。」

光「(「ど」)とく女つぽいな。」

神「(スツ、スルーー? また出直しマース・・・。)」

スツ

二人「(「消えた・・・! ?)」

その後勇斗の部屋の机に神からの置き手紙がありました。

学校は四天宝寺だそうです。

真田邸

神「もうあいつ相手にしたくなえ・・・つとおー!」

京「おー神。どした。」

神「お前の通う学校は立海な。麻友佳と一緒に。クローゼットの中に制服あるから。それと、そのうち合宿あるから。」

京「なんで！？ いつ入れた！？ つか、まあと一緒に！？ うれしいけどツツ」「ハビリティいろいろだな！」

神「神の力www」

京「んーまあ分かった・・・なーウチ等つてなんか特殊設定とか無いの？」

神「あー・・・そのうち ジャー」

京「あんのー？」

スツ

京「逃げられた・・・」

久留美の家（裕太込み）

神「じゃまするゼー・・・」

久「あ、神。」

神「父さんだ。」

久「は？（遠い目）

神「なんでもねえ（そんな目で見られるのは分かつてました。ただ出来心が・・・ね。）」

久「用は何？」

神「学校についてだ。お前氷帝に通うことになつてるから。」

久「あ、ルドルフじゃないんだ。」

神「ルドルフに行きてえの？」

久「いや、別に。氷帝の方がいい。ただみんな同じ学校の人とルームシェアだからさちよつとね。ルドルフか・・・？ってな感じなわけだよ。まあ、氷帝ならいよ。（氷帝ルームシェアするほど金に困つてなさそうだし・・・六戸以外。）

神「そうか。明日から学校だからな。あとそのうち合宿が（以下省略）」

久「分かつた・・・じゃあねさよならバイバイ神様。」

神「俺まだ何も言つてない。ま・・・じゃあな（泣）

スッ

こうして、神の苦労の夜は終わりました。
お疲れ一ツス！！

「わらじこ夏～あの時の俺達～ 第五話（前書き）

立海に行こう！――

終わらない夏～あの時の俺達～ 第五話

麻「今日から立海だーっ……！」

雅「元気じゃのー・・・。」

麻「だつてずっと行きたかったんだよーーーー！」

雅「ほー（受け流す）」

麻「～」

京「立海 立海」

弦「（ご）機嫌だな・・・・。」

京「（立海の制服・・・ハツ！・コスプレ・・・・？）

弦「つむーではこぐれーーーー！」

京「ういーっす」

立海大附属

麻「キヨーンーーー！」

京「まーあ そつすが神似合ひねえ~~~~」

麻「えへ」

雅「まあ、誰じや？友達？」

麻「うん~~~~友達のキヨン」

弦「む？天使、誰だ？」

京「んー・・・友達()のまあ 本名は神谷麻友佳ね。」

麻「じゃあ職員室行くからバイバイまつわー」

京「じゃあ俺もいくから」

弦「俺などとこつのはやめると書つてこるだらフーーたるんじるーー！」

京「じゃーねー」

雅「真田もたいくんじやのう。」

弦「お前のとこひもか？」

雅「まあ・・・こりこりとな。(いちいちボケに対応するのが疲れ
るぜ)・・・・・。」

教室（キヨン）とまあはとてもたのしさうです。）

2 - D組 WWW

先「転校生が来るゾー・・・入つてこい。」

麻「（先生やる氣無つ！） 神谷麻友佳です。」

京「天使京子です。」

先「（それだけか？） あー・・・窓側の席2つと・・・切原の隣があいてるな。 どれでも好きな席行け。」

女「（どうせ赤也君の隣に行くんでしょう…ずつる…）」

スタスタ

京「（そんなすぐテニス部の奴に近づいたら田えつけられるにきまつてるし WWW）」

ガタツ 窓側の席に座る。

麻「（そんなバカじゃないし WWW）」

ガタツ キヨンの前の席に座る。

女「（うわっ！？）」

京・麻「（ｗｗｗ）」

赤「（なんだあいつら・・・。）」

京「（赤也が・・・ｗｗｗ）」

麻「（びつみょくな顔してるｗｗｗ）」

京「（写メりてえｗｗｗ）」

この後二人は普通に授業を受けましたｗｗｗ

その日の放課後

赤「で、その転校生。俺には田もくれず窓側の席に座ったんッスよ！？」

幸「赤也、君は相当自分に自信があるようだねｗｗｗ」

赤「う～でもおかしいッス！！」

柳「調べてみる価値はありそうだな。」

弦「（それはもじや天使では……。）

幸「天使つて？」

弦「なつ！？」

赤「あーっそれツス！…天使とかこう名字でした…！」

幸「真田？何か知ってるみたいだけど？」

弦「む…いまその天使とやらは俺の家に居候してるので。」

柳「ふむ…知り合いなのか？」

弦「いや…お祖父さまの知り合いの孫だそ…。いまで天使という知り合いは聞いたことがないのだ。お祖父さまは納得しているが…。」

幸「ふうん…ねえ明日部活に連れてきてよwww

弦「なつ…ビうするのだ…！」

柳「いや、ビうもしないと思うが…。」

弦「…。」

幸「あわよくば、今度の合宿で臨時マネでもむやつて貰おつかなwwwで、連れてくるよね。」

雅「なに話したりむんじゅ？あと、真田、鑑めすぎじゅ。」

弦「・・・スマン・・・。」

赤「じつは・・・（以下省略）」

雅「ほーう・・・・・・・」

幸「！・・・・・ねえ」「王？ちよつといいとかな？」

雅「！？ちよ、何するだヨ！…つて、ああつーちよつ、ウイッグ取
れるつ！」

幸「行こうかー」

部室裏

雅「で？何の用、ゼヨ。」

幸「連れてくるよね？」

雅「誰を、ゼヨ。」

幸「連れてくるよね」

雅「・・・ハイ（泣

赤「幸村ぶちょーどうしんだろ・・・。」

柳 「・・・帰つてきたようだな。」

幸

雅
一
(泣)

赤一え!!?ちよ!!
仁王先輩!!?どうしたんッスか!!?」

雅 - 魔 C . . . ケバツ ! !

二
上
七

雅
ま
か
」

赤
(カクシ)
」

次の日の部活（朝～最後の授業までは・・・まあ・・・・・気にすんな
つ）

「え？ なになに？ どこ行くの？」

雅「いいからいいから」

京「つて俺もなんだ・・・。」

雅「幸村」連れてきたゼヨ・・・。

幸「レジス」

麻（ボカーン）

京へゆく。おもむろに

幸 -
ん?
「

京一（耳塞）

幸・赤・柳（キン）

麻「えつ！？なにこのドッキリ！？やばいなんだろ！テンション
があり得ないくらいおかしい！…え？夢？これ夢なんですかー！？
だれか説明プリーズ！？」

雅「ま、まあ・・・おひつきんしゃい・・・。」

「何で？」これがおちつこていられるか一つ……も一やだな一まつ
て——www

ガツン！！

雅「！」？」

バタツ

赤「（責ざめる）仁王先輩がまた死んだーっー！」

幸「こ、これは・・・（苦笑）

柳「すさまじいな・・・。」

幸「ブツ、くくくつ・・・。」

麻「？」

幸「アッハハハハwwwよつ、予想外だよwww仁王なぐるとかwwwなにげに大ダメージだしwwwアハハハハツ（大爆笑）

京「なんか気に入られたツボいゾ？まあ。」

麻「マジで！？」

幸「ねえ、今度俺たち合宿があるんだけどマネージャーとして来ない？合宿だけだからさーwww」

幸村君はまだ笑っているようです。

どんだけ仁王が死んだのがツボにはまつたのでしょつか・・・。

麻「行かせて頂きます。」

京「ミラクルwww赤也を無視したことで合宿のマネ権ゲットとは・・・」

幸「頼も来る？」

京「もううるさい！」

じつして、みんなハラクルで合宿に参加できるようになったまあと
キヨンなのでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3570ba/>

終わらない夏～あの時の俺達へ～

2012年1月14日19時45分発行